

ティーチング・ステートメント

所属 薬学部薬学科

名前 山下 美妃

作成日 2024年2月26日

【責任】

薬学部薬学科に所属し、臨床薬学を中心とした教育・研究活動を行っている。主たる教育活動は臨床薬学系の講義（病態・治療、症候学、処方解析、症例に基づく治療計画立案など）、実習・演習科目（多職種連携、調剤スキル、コミュニケーション、TDMなど）の担当、担任学生の学習指導、卒業研究指導、実務実習の円滑な実施のための調整、学生支援などを行う実務実習委員、薬学部の広報を担当する広報委員、薬剤師の生涯学習を担うセンターの長である。

【理念】

学生には、長期的に生き残ることができる薬剤師、刻一刻と変化する社会のなかでも、常に患者や生活者のニーズに応え、国民の健康維持に寄与する薬剤師になってほしい。2019年3月に発表された薬剤師の需給動向の予測によると、薬剤師の業務が現在と変わらないとした場合、薬剤師の供給は、長期的にみると需要を上回ると見込まれている。近い将来、薬剤師業務のうち、作業に該当する業務の多くは、AIやロボット、非薬剤師で代替されると予想されることから、「人である薬剤師」でなければできない業務や、患者や生活者のニーズを捉えて、どのようにそのニーズに応えていくかを考えて、薬剤師としての新たな業務・役割を自ら開拓することができる人材の育成が必要となる。そのためには、豊かな人間性を持ち、相手の状況に合わせた対応が出来ること（自分自身に余裕や遊び心を持ち、自身の心を豊かにして、相手を観察する事ができる）、十分な知識があり、患者や生活者のために何が必要かを考え、判断できること、自身にも目標があり、患者の疾病治療、生活者の健康維持という目標と一緒に向かうことができることの3つが重要であると私は考えている。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために、まず私は、自身が学生のロールモデルとなることや、学生同士の関わり合いの機会を増やすで、真に相手のことを考えて対応する重要性を学生に伝えることを目指している。このことで、豊かな人間性を身に付け、真に相手のことを考え、相手に合わせた対応ができるような薬剤師の育成に繋がりたいと考えている。豊かな人間性を身につけるためには、自身の生活を充実させることも重要である。また、「学生が授業に興味を持ち、学習の理解度が上がること」および「学生が自ら考える力を身につけること」で、患者のために何が必要かを考え、自身で判断・行動できる薬剤師の育成が可能となると考えている。さらに、自身にも目標があり、患者の疾病治療という目標と一緒に向かえる薬剤師の育成のために、「学生自身で目標を立て、立てた目標の達成に向かう機会を与え、目標を達成する成功体験をしてもらうこと」ことを教育活動の方針としている。

「自身が学生のロールモデルとなる」

- ・授業などの際、開始時間には遅れない、事前準備をしっかりと行う、学生との約束は守るなど、社会人として最低限のルールを厳守している。
- ・学生と対応するときは、相手の様子をよく見て、話をよく聞いた上で、指導、自身の経験に即したアドバイスを行うようにしている。

「学生同士の関わり合いの機会を増やす」

- ・地域でのイベントを開催し、学生にも運営に携わってもらっている。
- ・薬学生同士が学びあうサークルの顧問を務めており、イベント等の企画支援をしている。
- ・担任学生の縦のつながりを作るために、座談会や合同ゼミなどを開催している。

「学生が授業に興味を持ち、学習の理解度が上がること」

- ・授業等で使用するスライドは、文字の大きさに気をつけ、興味を持ってもらえるように授業内容に関連する動画やアニメーション、イラストなどを入れている。
- ・授業の中で、興味を持ってもらえるよう実体験や臨床経験に基づく話題を提供している。
- ・学生が授業に集中できるよう、メモを取る時間を十分に確保している。
- ・相手に話が的確に伝わるよう、大きな声ではっきりと話すようにしている。

「学生が自ら考える力を身につける」

- ・学生自身で考える課題および考える時間を与えている。
- ・卒業研究において、学生自身にテーマ、研究計画を立案させる。また、研究の途中で、学生自身による研究結果の考察をさせ、フィードバックすることに時間を割いている。

「学生自身で目標を立て、その目標の達成に向かう機会を与え、目標を達成する成功体験をしてもらう」

- ・自由科目セミナーで、どのような薬剤師になりたいかを考えさせている。
- ・6年次の学生に対し、国家試験合格に向けた目標設定とそれに応じた学習計画の立案、フィードバックを定期的実施している。

【評価・成果】

- ・様々な授業アンケートにおいて、授業の工夫やわかりやすさに関する評価が良い。
- ・卒業生から、学生時代に自身が担当した科目が業務に役立っている、卒業研究時に指導された社会的ルールやマナーが役立っているとの声がある。
- ・日本薬学会北海道支部 医療薬学貢献賞受賞

【目標】

- ・5年次の学生に対し、卒業研究期間中に毎日、省察を実施させる。(2024年前期～)
- ・学生にサークルやイベント運営、ボランティアなどの課外活動に参加する場を提供する、情報を流す。学生同士が交流する場を作る。(2024年前期～)
- ・理解度、知識の定着度が上がったか、「考える力」が身についたかどうかを測る方法(口頭試問を試してみる)を学び、取り入れる(まずは卒研から)。(2024年後期)
- ・学生にどういう薬剤師になりたいかを考える機会を与える(まずは卒研から)。(2024年後期)

・ 大学で身につけた能力が薬剤師業務に活かされているかを評価する。人間性を高める、卒業研究を通して考える力を養う教育を実践する。自身の人間性をはかる、高める。（長期目標）